

知的障害福祉研究

support

さぽーと

津久井やまゆり園事件から1年が経過して — 障害者の安心・安全を守るために —

特集

訪問記

香川県・社会福祉法人ナザレの村

SEMINAR

〔司法と福祉の連携〕
加害者となってしまう障害者の支援 (後半)

8

Aug.2017
No.727



若い職員の涙あり、笑いありの日々を熱く語っていただく本コーナー。昨年度に続き、若手支援員の思いを本音で語っていただきたいと思います。

支援方法に戸惑った時には“特性に戻る、評価に戻る”ことで子どもの困りを知ることに繋がる。

●事業所のこと、仕事内容について教えてください。

—児童デイサービスセンター an (利用者80名) に勤務しています。入社して3年目となり、未就学の方から小学3年生までの方を対象とした療育を担当しています。anでは、大阪府の委託を受けた個別の専門療育を行っており、療育(2週間に1回60分)や保護者研修を通じて、保護者様とお子様の特性の理解を深めていきます。

●福祉職に就こうと思ったきっかけは何ですか?

—大学入学当時は、保育士として保育園で働くことを希望していましたが、大学2回生の時に大阪市の児童の放課後事業である“いきいき”でアルバイトを始めました。そこで、初めて身近に自閉症の方やその方の保護者の方に触

れ、私自身、自閉症に関する知識はほとんどありませんでしたが、お母様から生活での困りや悩みについてお話をお聞きする機会があり、まだまだ私の知らない世界があるんだなという気づきと共に、自閉症に対してもっと知りたいという気持ちが増しました。

●印象に残るエピソードはありますか?

—活動の中で注意が逸れてしまい活動に集中できないお子様がいらっしゃいました。療育後、先輩方と改めて振り返ってみると、子どもの特性の部分で、活動の見通しを持つことの難しさ、切り替えの難しさなど、様々なことが一つの行動の中に原因として絡んでいく様子でした。その時、先輩方から、何事も“行動には必ず原因がある”こと、支援方法に戸惑った時には“特性に戻る、評価に戻る”ことで子どもの困りを知ることに繋がることを教えてくださいました。

●心に残る先輩からの一言はありますか?

—今、自分がしている支援はこれで本当にいいのかと不安を感じる時がありました。そんな時、上司との面談で“これでいいのか”と思わなくなったら支援はそこで止まってしまうと、支援をしていく上でとても大切なことだと助言をいただきました。何年支援に携わっていても、利用者の方にとっての最善の支援を常に考えていくことが必要だと感じました。先輩職員の方々が、本当に自閉症の方々を愛し、一つ一つの支援にも根拠を持って悩みながらも取り組まれている姿を日々見させていただくことで、私も、より利用者の方にとっての最善の支援を考え続けることができる支援者でありたいと感じています。

●これから取り組んでみたいことは何ですか?

—anでは、療育中保護者様も一緒にご覧いただき、活動を通じてお子様の特性の理解を深めていただいています。その中で、保護者様にとって、お子様の特性に関して新たな一面の発見があり、共有できる時にとてもやりがいを感じます。私自身、より保護者様にいてねいにお伝えができるように、保護者研修や北摂杉の子会の児童発達支援部で行われている内部研修や事業所内での研修に参加させていただき、より評価に基づいた支援を学んでいきたいです。今後は、保護者研修の場などでもお伝えさせていただくことができるように理解を深めていきたいと考えています。

矢野ゆかり(やの ゆかり)

1992年生まれ 兵庫県出身
2014年 社会福祉法人北摂杉の子会 児童デイサービスセンターan入職
趣味など 友人とのバンド活動(ピアノ)、旅行

